

救急現場活動の本質とは何か — 歴史的経緯とこれからの展望 —

**地方独立行政法人 堺市立病院機構
横田順一郎**

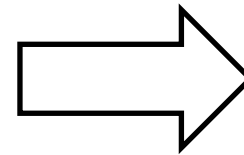
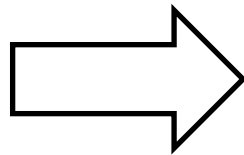
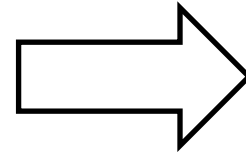
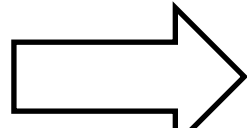


搬送と医療介入の一端

【ホメロスのイリアス、ブックXI カイロンの伝承】より

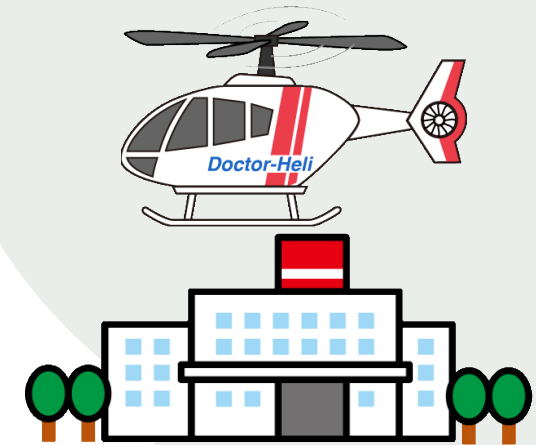
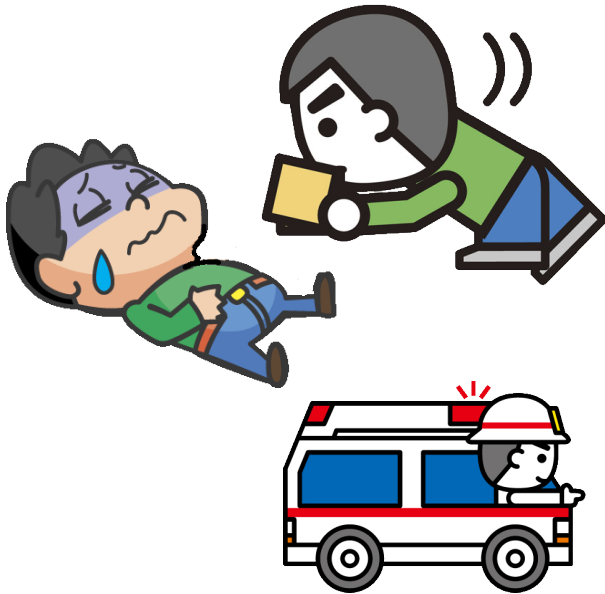
- "...But save me. Take me to the ship, cut this arrow out of my leg, wash the blood from it with warm water and put the right things on it - the plants they say you have learned about from Achilles who learned them from Chiron, the best of the Centaurs."
- 「私を救ってください。私を船に連れて行って、この矢を私の足から切り、温かい水で血を洗い、適切な薬草を置いてください」

傷病者を医療介入できる場所へ移動



救急搬送業務

急変と介入 (医療)



メディカルコントロール体制の導入

- **救急救命士法** 1991年4月公布、8月施行
 - ✓ 国家試験合格者 1992年3,916人、現在累計83,309人
- **救急業務高度化推進委員会(2000年度)**
 - ✓ **メディカルコントロール体制構築の必要性**
- **全国メディカルコントロール協議会の発足(2007年度)**
 - ✓ 日本救急医学会⇒消防庁、厚生労働省
- **消防法の改正** 2009年5月公布、10月施行
 - ✓ 消防機関と医療機関との連携、協議組織の設置等

救急業務高度化推進委員会報告書の概要

(平成13年(2001年)3月)

救急救命士の現場活動の質を保証する取り組み

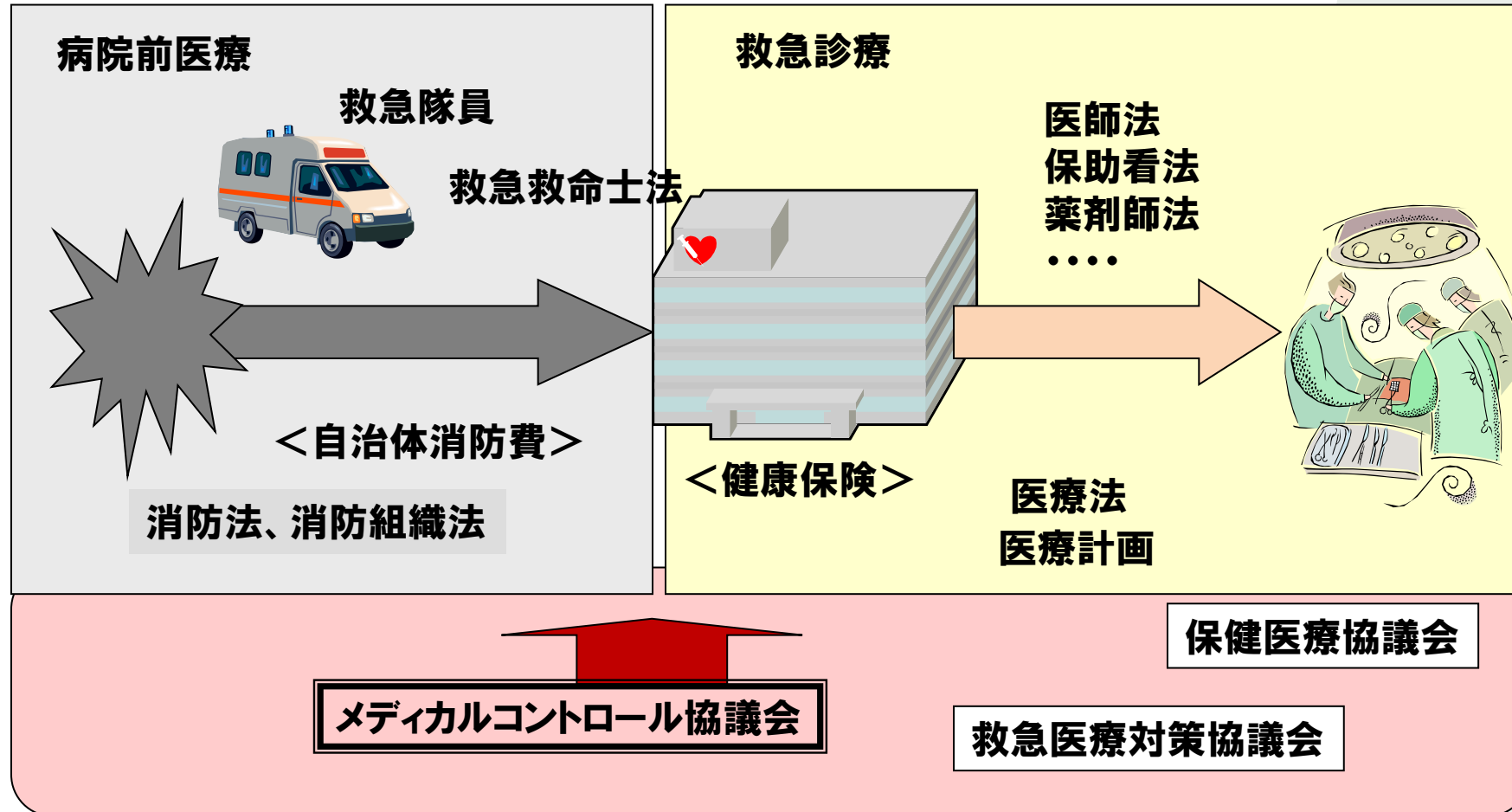
メディカルコントロール体制の構築

- ① 常時かつ迅速・適切な指示、指導・助言体制の構築
- ② 救急活動の事後検証体制の構築
- ③ 救急救命士の再教育体制の充実

救急救命士と指導する医師

総務省消防庁／地方自治体

厚生労働省／都道府県医療主管部局



メディカルコントロール体制の平準化

- 救急救命士法 1991年4月公布、8月施行
 - ✓ 国家試験合格者 1992年3,916人、現在累計83,309人
- メディカルコントロール体制構築の必要性(2000年度)
 - ✓ 指示、指導・助言/事後検証/再教育
- 全国メディカルコントロール協議会連絡会(2007年度)
 - ✓ 日本救急医学会⇒消防庁、厚生労働省
- 消防法の改正 2009年5月公布、10月施行
 - ✓ 消防機関と医療機関との連携、協議組織の設置等

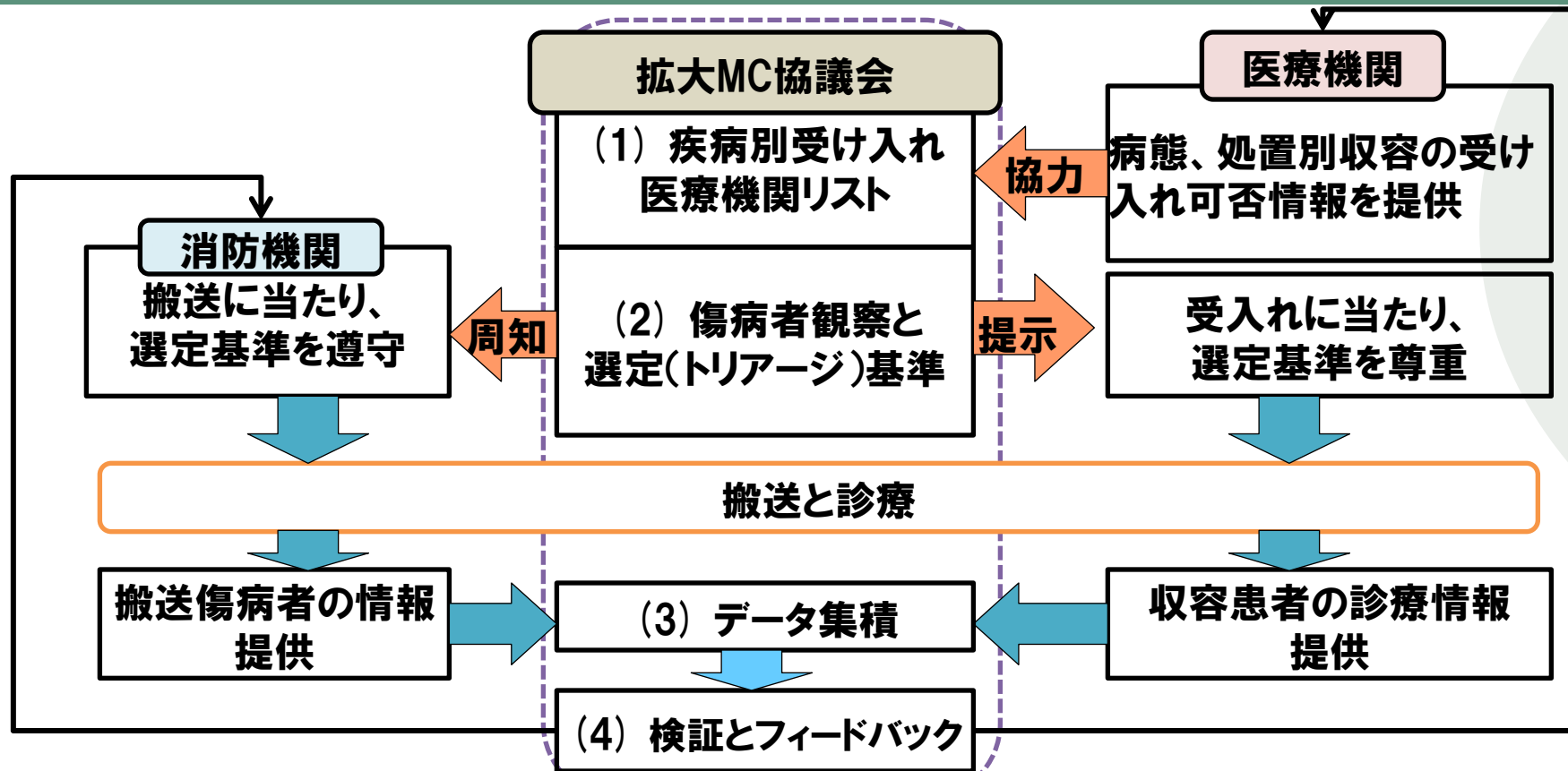
全国MC協議会連絡会連絡会

- **現場での救急救命処置に照準をあてた活動**
 - 心肺蘇生法進化に伴う最新の情報提供
 - 処置拡大に伴う適切なプロトコルの提案
 - 事後検証や教育にかかる体制
 - MC協議会の運営や予算確保
- **しかし、搬送困難事案が多発し、社会問題化**

メディカルコントロール体制の充実

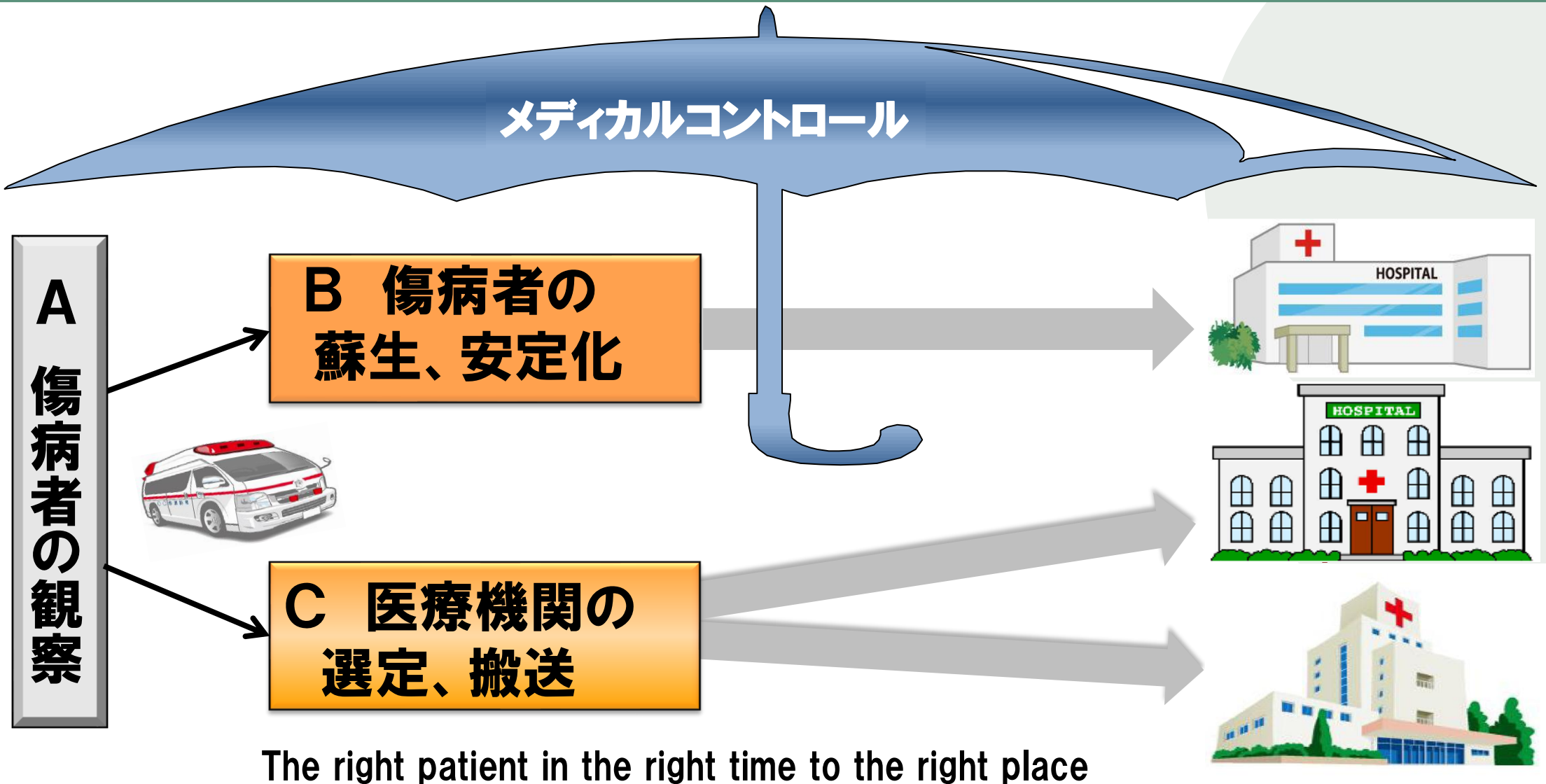
- 救急救命士法 1991年4月公布、8月施行
 - ✓ 国家試験合格者 1992年3,916人、現在累計83,309人
- メディカルコントロール体制構築の必要性(2000年度)
 - ✓ 指示、指導・助言/事後検証/再教育
- 全国メディカルコントロール協議会の発足(2007年度)
 - ✓ 日本救急医学会⇒消防庁、厚生労働省
- 消防法の改正 2009年5月公布、10月施行
 - ✓ 消防機関と医療機関との連携、協議組織の設置等

実施基準による病院選定と検証

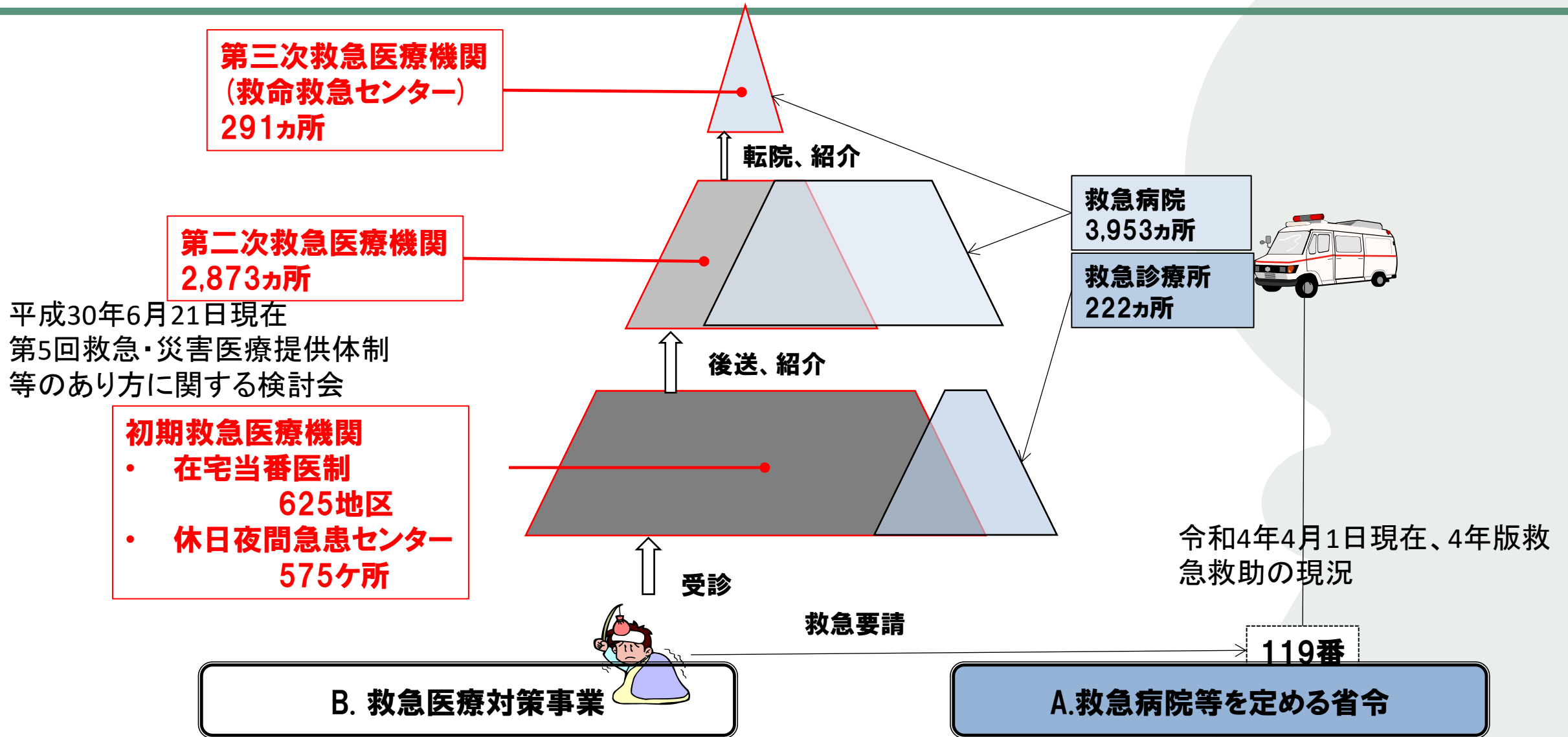


- (1) 緊急度・重要度、症候、病態、必要とする処置を考慮した疾病別受け入れ医療機関のリスト作成
- (2) 傷病者トリアージ基準と病院選定の基準作り
- (3) 病院前救護と診療情報のデータ収集
- (4) 搬送事例の検証と(1)、(2)修正のためのフィードバック

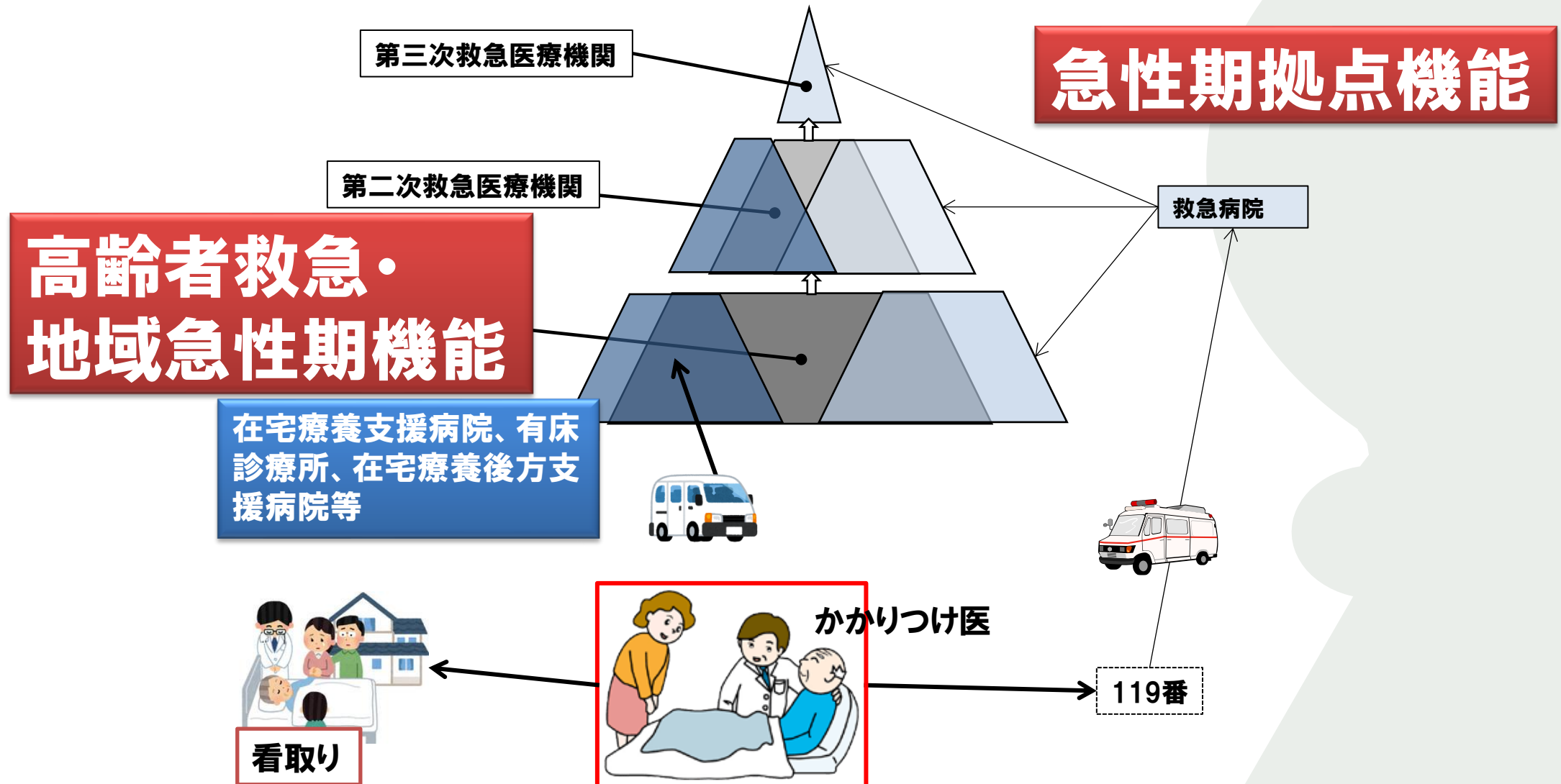
観察と行動



救急医療機関



新たな地域医療構想と救急医療



まとめ

- 現場活動の本質は、傷病者を安定化させ、適切な医療機関に搬送することである
- 救急救命士の救急活動の質を保証する取り組みとしてのメディカルコントロール体制は、①救急救命処置等の検証・教育にとどまらず、②消防機関と医療機関と連携の調整機能を果たし、地域を俯瞰して医療資源を最大限活用しうる体制整備の支援を行う協議の場として重要な位置づけとなる